

(3) - 6) F 事業所事例

特徴：事業所の新規事業計画をきっかけに地域住民との定例の対話の場を開始した例。
平成9年の新規事業では住民への説明会は集中的に行われた。このことを契機に毎年1回、周辺の3自治会の会合で事業場の活動や環境・安全の取り組みの説明および地域住民の生の声を聞く場を持つようにした。当初は工場長を始めとして複数出席していたが、休日の午後を実施することもあり、また、経験を得て、製造管理責任者が1人で対応できるようになった。また、地域行事への協力および参加や事業所のスポーツ施設開放や教育への支援やボランティア活動を通して地域と地域住民への貢献を果たしている。さらに別の形で、範囲の広い地域のステークホルダーとの定例会等も実施している。

従業員規模 : 100人 500人。

周囲の状況(立地): 単独事業所である。事業所周辺は第一次産業関係。

操業経過年数 : 25年超。

PRTR 取扱最大量の物質: 年間1,000トンを超す PRTR 対象の取扱物質有り。

環境・安全等のマネジメントシステムの有無: 有り。

- 1 対話開始時期: 平成9年から開始した。
- 2 きっかけ: 事業所内の施設の新規工事に際し、地域住民からの承諾が必要となったことがきっかけで開始した。
- 3 名称の有無: 無し。

対話の場の位置付け : 環境方針の実施と透明性の確保、企業活動と地域との信頼。

- 1 事業所側出席者 : 製造管理責任者 (当初は事業所長、製造管理、環境担当)
- 2 地域住民側出席者: 自治会住民。
- 3 その他出席者 : 無し。
- 1 事業所が地域住民と認識する範囲: 周辺3自治会の約200世帯
- 2 事業所の所在地の最小行政の範囲: 市で約30,000世帯強

実施方法: 各自治会の会合で別々に実施。

- 1 頻度: 年1回
- 2 場所: 自治会公民館
- 3 時期: 自治会行事
- 4 日時: 休日の午後
- 5 議題: 自治会の議題へ組み込んでいる。事業、環境・安全の取り組み等

化学物質情報提供の工夫: この事業所独自の手製報告書で図表を活用し、遵守を説明。

対話の場のメリット: 情報公開し、要望事項にきちんと対応(例: 環境クレーム: 間欠音対策)することで信頼関係が更に増した。

対話の場の難点 : 特に無し

住民の声 : 情報開示による住民の意見の具申及び意見の反映が可能となる。

改善への課題 : 特に無し。外部審査で外部コミュニケーションが良いと評価。